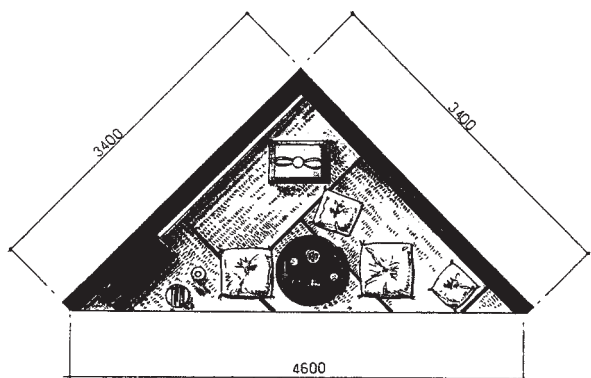


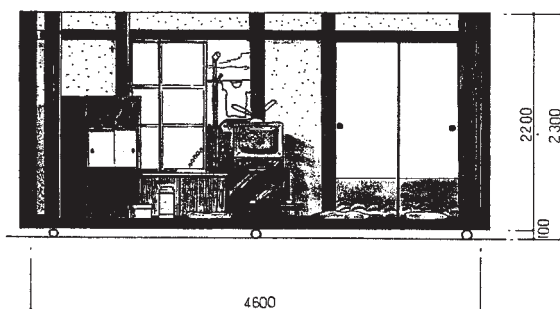
白河市在住の写真家、近藤昌好氏の全面的協力と御厚意により昭和20年代から30年代にかけて撮影されたフィルムを提供していただいた。大信村教育委員会から平成12年に発行された氏の記録写真集『写真集ふるさとの記憶大信村史民俗編資料集』に掲載された写真を含めて、衣食住に関わるもの、子供の情景、以降の急激な開発の萌芽となる交通に関わるものなどを選択させていただいた。これらと併せて昭和7年の白河市下総塚古墳発掘調査状況（白河市教育委員会提供）と昭和27年の新地町三貫地貝塚発掘調査状況（県立博物館提供）写真を組み入れた。

〈昭和40年代〉

高度経済成長期の真只中、昭和41（1966）年のいわゆる文化住宅の茶の間を再現している。四畳半の部屋である。中央に卓袱台を配し、子供2人の核家族の食卓を仮定した。この頃インスタント食品が発売され始め、イン



平面図



立面図

〈昭和40年代〉ブース設計

〈昭和40年代〉テレビ放映ニュース内容

①	ライシャワー駐日米大使夫妻来県（会津若松市）
②	竪穴式住居の冬景色（郡山市・三森遺跡）
③	会津乗合バスでバスガイド訓練（会津若松市他）
④	猪苗代の観光船の運行始まる（猪苗代町）
⑤	高校野球 磐城高校優勝（福島市）
⑥	20万都市福島がスタートー松川町・信夫村と合併（福島市）
⑦	福島女子高校の授業風景（福島市）
⑧	常磐ハワイアンセンターで水着モデル撮影会（いわき市）
⑨	巡回慰問の只見音楽研究会（只見町）
⑩	相馬野馬追（相馬市・原町市）
⑪	スタントカーショー（郡山市）
⑫	台風被害 船引町で土砂崩れ（船引町）
⑬	二本松菊人形まつり（二本松市）
⑭	アメリカンスクールの生徒交歓会（白河市）
⑮	大しめ縄奉納 東山の羽黒山神社（会津若松市）



〈昭和40年代〉ブース



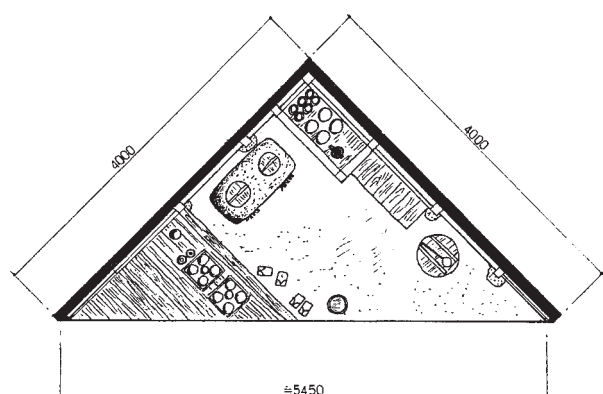
〈昭和40年代〉の食卓

1 常設展示

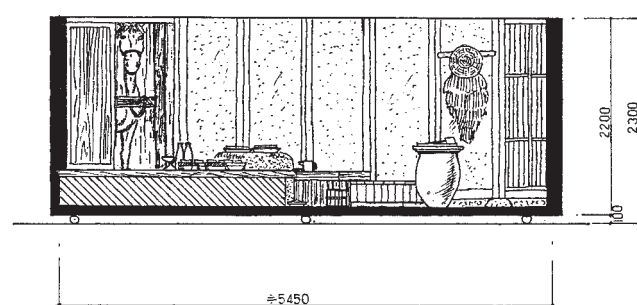
スタントハンバーグが子供達のおかずである。親のおかずは旧来の目刺しで、「共食」が崩壊し親子の断絶の萌芽が食生活に窺え始める画期を表現している。また、食卓における父親の権威が失墜する象徴としてテレビを中央に位置づけた。「巨人の星」等のアニメ番組をこのテレビで放映したかったが、予算と著作権の関係で不可能となり、(株)福島テレビの御厚意によって昭和41年のニュース映像を常時ビデオ放映することができた。素材テープに音声が入っていなかったためアナウンスは無い。番組内容は41ページの表の通りである。

〈江戸時代〉

一般的農家の台所（かまど）を中心とした部分を復元している。福島市民家園の旧菅野家住宅から取材した。かまどと囲炉裏が併用されている民家であるが、囲炉裏部分まで復元する広さを確保できなかった。壁は土壁である。柱には擬した手斧痕を表現し、床板はカンナ仕上げとした。



平面図



立面図

〈江戸時代〉ブース設計

かまどには羽釜を設置し、板の間に箱膳を用いて配膳された様子を表現した。復元食器は漆器を用い、食事は玄米にヒエ、大根葉を加えたご飯と打豆、大根等を具にしたみそ汁、みそ豆、瓜の漬け物、こんにゃくと大根の煮物を復元した。こんにゃくは近世からの県南地域の特産物である。

実物資料は浪江町中平遺跡（大堀焼）、新地町今神遺跡、郡山市唐松館跡、三春町堀ノ内遺跡等の近世陶器を中心に展示している。また、小物として郡山市宮田館跡、小野町本飯豊遺跡等の土人形を展示した。

〈鎌倉・室町時代〉

県内ではモデルに適した遺構検出例が無い。ため、広島県草戸千軒町遺跡の遺構及び復元建物を参考とした。壁は板壁とし、板面は手斧痕を擬した表現とし、床は土間と板の間で構成して床板はヤリガンナ仕上げを擬した。板の間への上り口には囲炉裏を配置した。当



〈江戸時代〉ブース

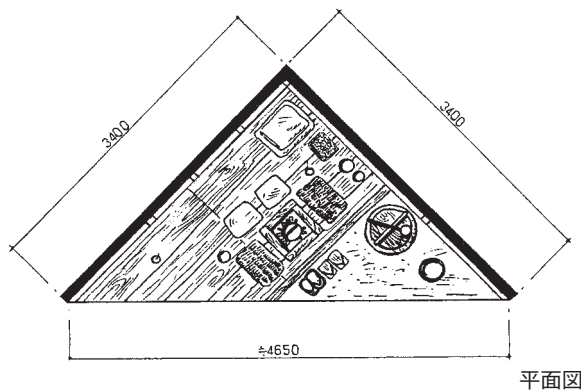


〈江戸時代〉の食卓

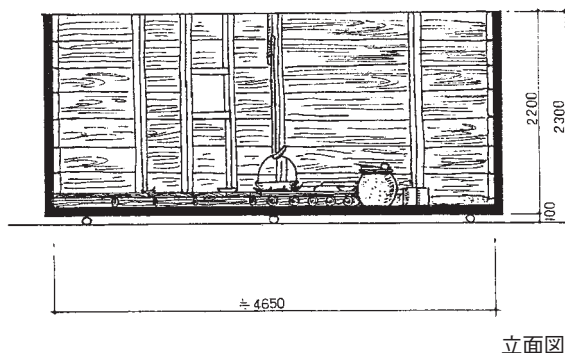
時、囲炉裏上に鍋等の懸吊具があったか、五徳状の器具に鍋を載せたのかは不明であるが、東北地方における内耳鍋が比較的早くから登場することを鑑みて懸吊具を選択し、会津地域に伝わる最も単純な構造の自在鉤を会津民俗館に取材し復元して吊した。

復元食器は瀬戸瓶子をモデルにしたもののほか、すり鉢、漆器椀、かわらけ、内耳鍋、大甕などを製作し、雑炊（玄米、ミョウガ、大根、芋ガラ入り）、豆腐、どぶろく等の料理を展示した。この時期に多く出土するすり鉢を主に豆類の加工用具と考え、味噌玉と豆腐を展示することでその機能を代表させた。

県有資料の中で中世の出土資料は極めて少なく、実物資料は猪久保城跡の瀬戸（搦鉢）、郡山市木村館跡の青磁、染付、美濃など中世陶器の破片をケース内に展示する程度しかできなかった。他に須賀川市蛭館跡の漆器、石川町古宿遺跡の温石等を展示している。



平面図



立面図

〈鎌倉・室町時代〉ブース設計

〈奈良・平安時代〉

矢吹町上宮崎A遺跡2号住居跡をモデルとした。奈良時代末から平安時代初頭の時期（栗囲式期）の住居跡である。柱穴は検出されておらず、北壁の東寄りにかまどがある。かまどの燃焼部は北壁のライン上に位置することから、かまどの両脇の掘り込み面は壁の内側に取り込まれていたと判断した。よってかまどの両翼に食器などを置くスペースを設けることとした。内壁は杉皮を用い、土留めは製材した板を用いて細木で押さえた。結縛は藁縄を用いた。床は直接むしろを敷いた場合早期に腐蝕するので、板や簀の子状の下材があったと考えられるが、狭い範囲なので下材は省略しむしろだけを敷いた。

かまどでは長胴甕と曲物甕で玄米を蒸しているようすを復元している。復元食器は須恵



〈鎌倉・室町時代〉ブース



〈鎌倉・室町時代〉の食卓

1 常設展示

器長頸瓶、須恵器杯、土師器杯、木製皿等。料理は、季節を冬に設定し、平城宮出土木簡に「醬（ひしお）」とあることから醬を用いた保存食に焦点を当てて、玄米ご飯とジュンサイの汁、どぶろく、ハヤの醬漬け、菜っ葉の醬漬け、豆びしおを復元した。

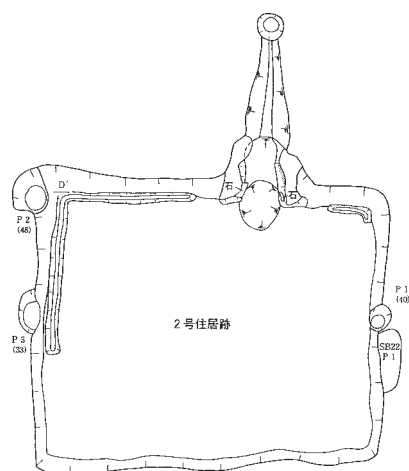
住居の中の雰囲気作りのためもあり鋤、鉄斧、鉄製紡錘車、桶、曲物等の道具類も展示した。

実物資料は東村谷地前C遺跡、泉崎村関和久遺跡、檜葉町鍛冶屋遺跡、いわき市大猿田遺跡等の須恵器杯や土師器杯、高台付杯、長胴甕、鉢などを展示した。

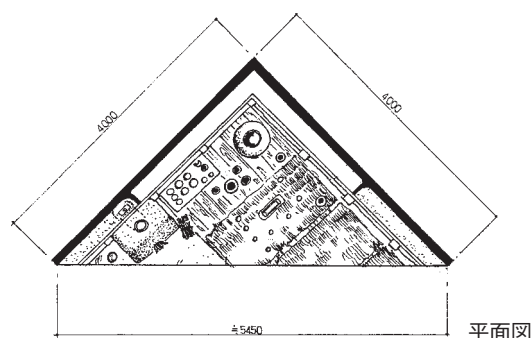
〈古墳時代〉

矢吹町白山A遺跡3号住居跡をモデルとした。5世紀後半（古墳時代中期）の佐平林式期の住居跡である。北壁の中央にかまどがあり、かまどの東側に貯蔵穴がある。

かまど側部分、1／4程度を復元した。内



矢吹町上宮崎A遺跡2号住居跡



〈奈良・平安時代〉ブース設計

壁は杉皮、土留めは板材を細木で留めた。結縛は藁縄を用いた。柱は四本で、北東に位置するものだけを立てている。この柱から間仕切り溝が延びていることから、この部分に板材で腰高の間仕切りを設け、食器置き場とした。床には部分的にむしろを敷いた。貯蔵穴部分は浅く窪めて連結した板で塞いだ。

かまどには甕と甑を設置して米を蒸した状況を復元している。復元食器は須恵器ハソウと杯、土師器杯、木製槽など。料理は季節を春に設定し、強飯（米、クルミ、ソバの実、ハスの実）と野草のスープ（ヨメナ、ノビル、セリ、ヤマノイモ入り）、蒸し料理のおかずとしてギョウジャニンニクの蒸しものとソバ粉、クルミ、ヤマノイモ、蜂蜜を混ぜて練り蒸し上げたものを作ってみた。蒸し料理に注目したものであり、文献記録等の根拠があるものではない。

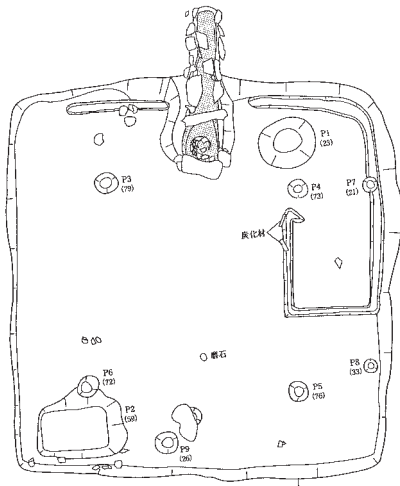
道具類は鋤、鍬、鎌、ヤリガンナ、刀子な



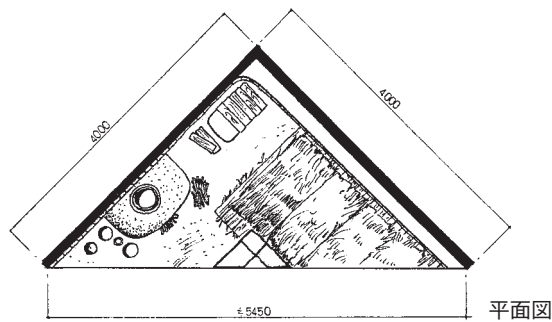
〈奈良・平安時代〉ブース



〈奈良・平安時代〉の食卓



矢吹町白山A遺跡3号住居跡



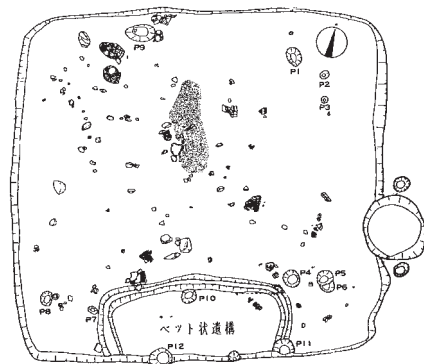
〈古墳時代〉ブース設計



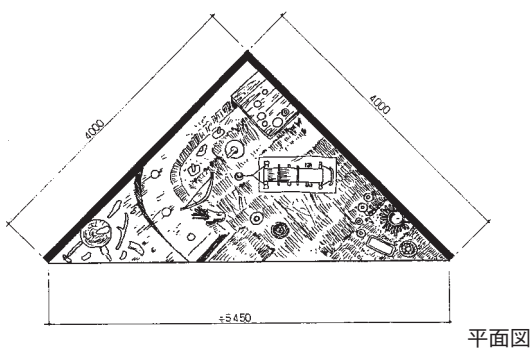
〈古墳時代〉ブース



〈古墳時代〉の食卓



いわき市八幡台遺跡1号住居跡



〈弥生時代〉ブース設計

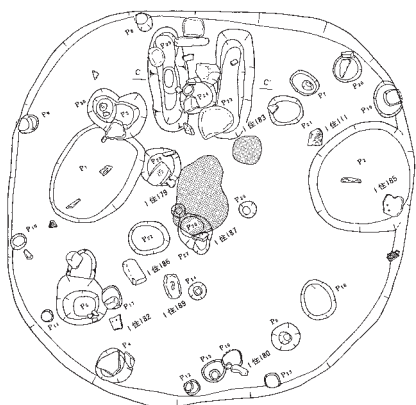


〈弥生時代〉ブース

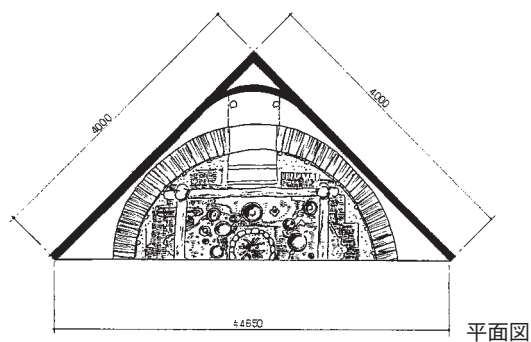


〈弥生時代〉の食卓

1 常設展示



郡山市荒小路遺跡 1 号住居跡



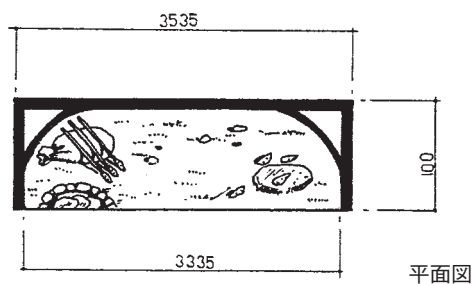
〈縄文時代〉ブース設計



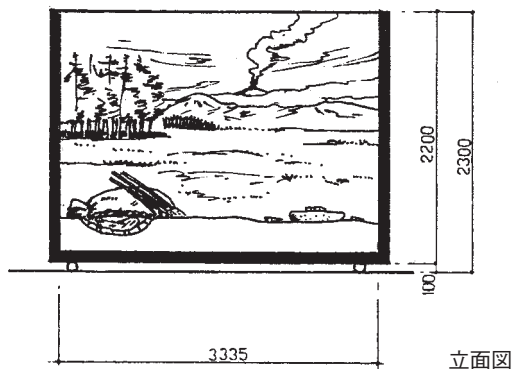
〈縄文時代〉ブース



〈縄文時代〉の食卓



平面図



立面図

〈旧石器時代〉ブース設計



〈旧石器時代〉ブース



敷地内（一里段 A 遺跡）出土旧石器

どを展示した。

実物資料はブース内に矢吹町白山A遺跡と郡山市正直A遺跡の土師器、須恵器を露出展示し、小ケース内には矢吹町弘法山古墳群出土の勾玉等装身具、郡山市正直A遺跡の勾玉形石製模造品を展示した。

〈弥生時代〉

県教育委員会が調査した弥生時代遺跡の内、良好な遺存状態で検出された住居跡はないため、いわき市教育委員会が調査した、いわき市八幡台遺跡1号住居跡（弥生後期一八幡台式期）をモデルにした。そのため展示資料（弥生中期一二ツ釜式期）とは時期的に整合していない。

1辺5.8～6mのほぼ正方形のプランである。モデルの住居には内部に「ベッド状遺構」があるが、スペースの関係でこの部分の復元は省いた。県内の弥生時代の住居跡では明瞭な柱穴を検出することが極めて少ないので、壁立ちと仮定して復元している。中央近くに炉が検出されているが、僅かに壁寄りに位置をずらして炉の半分ほどを表現した。内壁はクルミの皮を用いて壁柱に沿わせフジ蔓で結縛した。土留めは枝木のしがらみとした。

復元食器は壺、深鉢、蓋、木製皿、笊等。料理は季節を夏に設定し、赤米のちまき、スープ（干し魚、シカ肉、ヤマノイモ、アカザ入り）、イワナ、ヤマメの焼き干し、サケの薫製、どぶろくを作った。

道具類は、弥生中期桜井式期の石器のセットをモデルとして復元した石庖丁、石斧類、石ノミ、石鍬のほか木製鋤、エブリなどの農具、原始機などの復元品を展示した。

実物資料は、会津若松市一ノ堰B遺跡の壺、蓋、深鉢、コップ形土器などを展示した。

〈縄文時代〉

郡山市荒小路遺跡1号住居跡をモデルとした。時期は縄文後期の加曽利B1式期である。直径5mほどの不整円形のプランで、北東部に入り口施設と思しき2条の掘り込みがある。炉はほぼ中央にあり、地床炉である。入り口

の反対側ほぼ1/2を復元しているが、スペースの関係で60%に縮小した。プランが円形であることから他のブースのように三角形のスペースをとることができなかったためである。主柱穴は4本と考えられ、内2本を復元部分に取り込んだ。よって内部は極めて狭いものになってしまった。屋根材はカヤにすると散らかりまた燃えやすいため、クリの皮を用いることとした。近年県下の縄文時代竪穴住居が土葺きであったとの見解も一部で示されているが、これまでの発掘調査の成果から類推すると多くの遺構が該当するとは言えない状況であるため、植物質の素材を用いたと仮定して復元した。土留めは割截材を用いて細木で固定した。部材の結縛はフジ蔓を用い、一部アサ紐を使った。

復元食器は、縄文後期の深鉢、注口土器のほか、漆塗りの木製品を製作した。料理は、季節を秋に設定し、深鉢ではイノシシ、カモ肉、クリ、キノコ、トチ団子の入った煮物を表現し、他にクリ、クルミ、エゴマ、シカ肉、ヤマブドウを混ぜたクッキー状の食べ物、ヤマブドウ酒、サケの燻製を作った。

道具類の復元は、石斧、弓矢、釣竿、石槍、布編み具等を展示した。

このブースは造作の都合上構造壁が背景に見えてしまうため、クリ林を中心とした「縄文の森」を背景画として描いた。写実的に描いた場合、色彩的にうるさい表現となるためセピアカラーで統一した。

実物資料は、器種の豊富さから磐梯町角間遺跡の縄文後期中葉の土器を選定し、他に三春町柴原A遺跡の注口土器（堀之内2式）等を展示している。

〈旧石器時代〉

背景復元が最も困難な時代である。ブースも他の三角空間と異なり、壁面を利用した狭い長方形の空間となった。

県内では旧石器時代の調理施設の可能性として高郷村塩坪遺跡で唯一「礫群」が検出されている（県立博物館の調査）。この遺構を当

1 常設展示

時の石蒸し調理施設と仮定して復元を試み、料理としてはオオツノジカの肉を笹の葉で包み、これを蒸し焼きした場面を設定した。

傍らにはシカ皮の袋に入った石器、ナイフ形石器を装着した石槍、加工途中のオオツノジカの角が置いてある。

壁面には当施設の場所から西方向の那須連峰を臨んだセピアカラーの背景画を配している。

実物資料は、小型の石器であることから露出展示ができないため、小ケース内に当施設（一里段A遺跡）の造成工事に伴って行った発掘調査で出土した約25,000年前のナイフ形石器、スクレイパー、剥片、約13,000年前の細石核を展示した。

〈生と死〉

「暮らしのうつりかわり」の「江戸時代」と「奈良・平安時代」の間にできた壁面空間に挿入したグラフィックを中心としたコーナーである。

暮らしが移り変わる中で、いつの時代も変

わらぬものが人間の「生」と「死」であり、文化財を産み出してきた各時代の祖先達の生と死、引いては自らの生と死を考えてもらうことをねらいとしている。縄文時代と古代末頃の時期に代表させて、各々の死生観を紹介する。

古代末では、『北野天神縁起絵巻』（北野天満宮蔵）の「六道絵」中、出産の様子で「生」を、『餓鬼草子』（東京国立博物館蔵）の「疾行餓鬼」中、お墓の様子で「死」を表現し、まじないなどの誕生時の習俗と死時における貧富差による扱いの違いなどに注目してもらうようにした。縄文時代においては磐梯町法正尻遺跡出土土偶と天栄村桑名邸遺跡ほか出土石棒で「生」を、新地町三貫地貝塚人骨出土状況で「死」を表現し、いのちの誕生を希求するマツリのあり方や再生を企図した葬送方法について注目してもらいたいと考えた。

実物資料は小ケースに、仏教関連の近世資料として須賀川市早稲田古墳群の数珠、会津



〈生と死〉パネル展示

若松市上吉田遺跡の「寺田」墨書土器、新地町師山遺跡の礫石経、中世では須賀川市杵山遺跡の板碑、縄文時代のものは福島市弓手原、郡山市荒小路、飯舘村羽白C各遺跡の土偶のほか飯舘村真野ダム関連諸遺跡の石冠、石刀、石棒等を展示している。当初、横穴墓出土の人骨を予定したが、人道上の理由で変更した。

小ケースはメモ台も兼ねるよう設計し、移動可能な軽いスツールを配置した。

c 「暮らしをささえた道具たち」

各時代の生活を支えてきた道具類を展示するコーナーである。実物資料を覗きケース内に、復元品を壁面に展示して「わかりやすさ」を強調すると共に、中央の演示台には手に持って感触を実感できる復元品を配置して「体感できる」展示方法を基本とした。

出土文化財（考古資料）は、もとより完全な形で出土することは極めて稀である。さまざまな道具類もその一部であったり部品であったりすることが多く、あるいは金属製品にあっては錆や腐蝕によって無惨な姿になっているものがほとんどである。各時代において機能した本来の姿をこれらの部分資料や変質した資料から推定するのは専門家といえど容易ではなく、多くの博物館等ではこれを避ける傾向にある。しかし、この点が一般来館者にとって考古資料を遠い存在に感ぜしめている一因とも考えられる。学問的には無謀とも言えるが、当施設が「文化財に親しむ」ことを目的の一つとして掲げていることを勘案して現時点で可能な限りのバックデータを収集した上で復元を試みた。

展示資料は、縄文時代の石器、弥生時代の石器、古墳時代から平安時代の木製品と金属製品が中心である。復元品の製作は、展示工事とは切り離し別途展示業者に発注した。復元資料のモデルは表中に明示した。

復元資料は製作展示したものの、それぞれの道具の作り方と使い方については説明を要するところである。そこでコーナーの最初に

タッチパネルモニターを設置し、代表的道具の作り方をイラストで紹介する解説システムを設けた。いわば電動紙芝居である。

- ・縄文土器の作り方
- ・矢じりの作り方
- ・木のお椀の作り方
- ・銅鏡の作り方

の4種を各4コマのカットで紹介している。

使い方については鉄斧、鉄鍬、鉄鎌についてイラストパネルで解説したが、当初設計に入れ込まなかったことから財団職員の協力で描いたため多くの道具について使い方を示すことができなかった。なお、イラストに登場する人物は髪が薄く髭があり眼鏡をかけて描かれているが、これも親しみながら観覧してもらうためのひとつの工夫であり、解説時には間違い探しにも利用できるものである。

古墳時代の金属加工技術は、中央政権がふくしま地域に影響を与えた事実を裏付けるもので、且つふくしま地域と中央の格差あるいは技術の差異をも反映する重要なものとして位置付け、製作技術そのものを復元的に行うことが必要と判断した。細部の製作技術復元を含んだ復元製作は一般の展示業者では不可能と判断し、東村筑内古墳群出土資料と鹿島町真野20号墳出土金銅製双魚佩の復元に当たっては、考古学、金工史研究者と金工技術者で組織した文化財と技術を研究するプロジェクトグループに製作を委託した。

金属製品の展示に続いて相馬開発関連遺跡・原町火力発電所関連遺跡調査における重要な成果である製鉄遺跡についての紹介コーナーを設けている。各遺跡で出土した炉壁、フイゴの羽口、鑄造鑄型、取鍋などの実物資料や原料である砂鉄などを展示している。中心となるのは奈良時代から平安時代にかけて営まれた製鉄遺跡における操業時の1/30の縮尺模型で、地形と遺構の位置関係は原町市大船迫A遺跡から取材し、製鉄炉は同じく原町市鳥打沢A遺跡1号製鉄炉（野外展示の実物大復元と同じ）、鍛冶工房は大船迫A遺跡の

1 常設展示

「暮らしをささえた道具たち」展示品一覧(1)

導入	復元品	仕様概要
	離頭鉈	現代の製品。
	離頭鉈	いわき市寺脇貝塚例を参考。鹿角製。
	石槍	飯舘村上ノ台A遺跡例を復元。柄に装着。

1 石の道具	展示品	素材	出土遺跡	時代
	ナイフ形石器	石	石川町薬師堂遺跡	旧石器時代
	ナイフ形石器	石	新地町三貫地遺跡	旧石器時代
	ナイフ形石器	石	郡山市弥明遺跡	旧石器時代
	搔器	石	郡山市弥明遺跡	旧石器時代
	石錐	石	飯舘村上ノ台A遺跡	縄文時代
	石錐	石	郡山市荒小路遺跡	縄文時代
	石錐	石	西会津町塩喰岩陰遺跡	縄文時代
	石錐	石	須賀川市一斗内遺跡	縄文時代
	石鏃	石	飯舘村上ノ台A遺跡	縄文時代
	石鏃	石	飯舘村日向南遺跡	縄文時代
	石鏃	石	西会津町塩喰岩陰遺跡	縄文時代
	石鏃	石	須賀川市一斗内遺跡	縄文時代
	石匙	石	飯舘村日向南遺跡	縄文時代
	石匙	石	西会津町塩喰岩陰遺跡	縄文時代
	ヘラ状石器	石	磐梯町天光遺跡	縄文時代
	ヘラ状石器	石	天栄村前原A遺跡	縄文時代
	磨製石斧	石	天栄村前原A遺跡	縄文時代
	磨製石斧	石	飯舘村上ノ台A遺跡	縄文時代
	磨製石斧	石	郡山市荒小路遺跡	縄文時代
	磨製石斧	石	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡	縄文時代
	磨製石斧	石	須賀川市浜井場B遺跡	縄文時代
	打製石斧	石	飯舘村上ノ台A遺跡	縄文時代
	打製石斧	石	郡山市荒小路遺跡	縄文時代
	打製石斧	石	飯舘村羽白C遺跡	縄文時代
	石皿	石	磐梯町天光遺跡	縄文時代
	磨り石	石	磐梯町天光遺跡	縄文時代
	石包丁	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	石鏃	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	大型蛤刃石斧	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	扁平片刃石斧	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	石鍬	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	ノミ形石器	石	鹿島町南入A遺跡	弥生時代
	復元品	仕様概要		
	弓	三島町荒屋敷遺跡出土弓を参考。イヌガヤにカラムシの弦。		
	矢	日向南遺跡例を参考。頁岩製鏃。篠竹を装着。		
	石匙	頁岩製。カラムシの紐を装着。		
	ヘラ状石器	塩喰岩陰遺跡例を参考。柄の装着は北海道江別太遺跡を参考。		
	打製石斧	上ノ台A遺跡例を参考。直柄を装着し、土堀具形態に復元。		
	磨製石斧	法正尻遺跡例石斧を復元。滋賀県滋賀里遺跡例直柄を参考復元し、装着。		
	磨製石斧	三島町荒屋敷遺跡出土磨製石斧と膝柄を復元し、縦斧と復元。		
	大型蛤刃石斧	南入A遺跡出土石斧を復元。宮城県中在家南遺跡出土直柄復元品に装着。		
	扁平片刃石斧	南入A遺跡出土石斧を復元。宮城県中在家南遺跡出土膝柄復元品に装着。		
	ノミ形石器	南入A遺跡例を復元。木製柄に装着。		
	石包丁	南入A遺跡例を復元。2つの孔に麻紐を通す。		
	石鍬	南入A遺跡例を復元。木製膝柄に装着。		

「暮らしをささえた道具たち」展示品一覧(2)

2 漁 労 の 道 具	展 示 品	素材	出 土 遺 跡	時 代
	土錘	土	鹿島町南入A遺跡	縄文時代
	石錘	石	鹿島町南入A遺跡	縄文時代
	ヤス	鹿角	新地町三貫地貝塚	縄文時代
	ヤス	鉄	いわき市白岩堀ノ内遺跡	弥生時代
	ヤス	鉄	新地町高田遺跡	古墳時代
	釣針	鹿角	新地町三貫地貝塚	縄文時代
	網針	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	復 元 品	仕 様 概 要		
	魚網	軽石製浮子と切目石錘・有溝土錘を付けた網を製作。		
	ヤス	三貫地貝塚例を復元。木柄に装着。		
	ヤス	いわき市白岩堀ノ内遺跡例を復元し、木柄に装着。		
	ヤス	新地町高田遺跡例を復元し、木柄に装着。		
	魚網	相馬市大森A遺跡例浮子を復元。管状と球状の土錘を装着した網を製作。		

3 木 の 道 具	展 示 品	素材	出 土 遺 跡	時 代
	大足	木	相馬市大森A遺跡	古墳時代
	田下駄	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	唐鋏	木	鹿島町大迫遺跡	平安時代
	鋏反柄	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	鋏身	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	斧柄	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	鎌柄	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	かけや	木	鹿島町大迫遺跡	平安時代
	横槌	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	復 元 品	仕 様 概 要		
	大足	大森A遺跡例を復元。外枠は大阪府友井東遺跡例を参考に製作し装着。		
	唐鋏	大さく遺跡例をいわき市根岸遺跡例を参考に復元。矢吹町上宮崎遺跡出土鉄製鋏先例を復元装着。		
	反柄鋏	大猿田遺跡例鋏身・反柄を復元し、矢吹町上宮崎A遺跡出土鉄製鋏先例を復元装着。		
	鉄斧	大猿田遺跡例を復元し、小野町本飯豊遺跡出土鉄斧を復元装着。		
	鎌	大猿田遺跡復元例に矢吹町上宮崎遺跡出土鉄製鎌先を復元装着。		
	かけや	大さく遺跡例を復元。		
	横槌	大猿田遺跡例を復元。		

4 木 の 器	展 示 品	素材	出 土 遺 跡	時 代
	曲物側板	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	槽	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	挽物荒型	木	福島市弓手原A遺跡	平安時代
	挽物未製品	木	東村佐平林遺跡	平安時代
	独楽状木製品	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	刮物桶側板	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	曲物底板	木	いわき市大猿田遺跡	平安時代
	復 元 品	仕 様 概 要		
	曲物	大猿田遺跡例や曲物甑を復元。		
	槽	大猿田遺跡例を復元。		
	刮物椀			
	刮物皿	大阪府池上遺跡例（弥生時代）を復元。		
	挽物椀	福島市御山千軒遺跡例を復元。		
	桶	大猿田遺跡例を復元。		

1 常設展示

「暮らしをささえた道具たち」展示品一覧(3)

5 鏡の復元 三角縁神獣	展示品	素材	出土遺跡	時代
	三角縁神獣鏡	複製	会津若松市会津大塚山古墳	古墳時代
	三角縁神獣鏡	複製	岡山県鶴山丸山古墳	古墳時代
	復元品	仕様概要		
	三角縁神獣鏡	会津大塚山鏡をモデルに研究復元で製作。青銅製。		
	鏡鋳型	研究復元で製作、使用。		

6 古墳時代の金工技術	展示品	素材	出土遺跡	時代
	銅鉤	青銅	東村笹内古墳群	古墳時代
	銅釧	青銅	東村笹内古墳群	古墳時代
	耳環	青銅	東村笹内古墳群	古墳時代
	飾帯金具	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	鞆	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	締金具	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	辻金具	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	雲珠	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	鏡板付轡	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	杏葉	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	復元品	仕様概要		
	銅鉤	笹内古墳群例を研究復元で製作。青銅製。		
	銅釧	笹内古墳群例を研究復元で製作。青銅製。		
	耳環	笹内古墳群例を研究復元で製作。青銅製。		
	古墳時代の馬装	研究復元で製作した笹内古墳群の馬具を古墳時代の実物大馬型に装着。		
	双魚佩	鹿島町真野古墳群出土例を研究復元で製作。鉄地。		

7 鉄の武器	展示品	素材	出土遺跡	時代
	直刀	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	鉄鏃	鉄	東村笹内古墳群	古墳時代
	鉄鏃	鉄	新地町高田遺跡	古墳時代
	鉄鏃	鉄	泉崎村石関横穴群	古墳時代
	鉄鏃	鉄	河東町駒板新田遺跡	古墳時代
	鉄鏃	鉄	三春町越田和遺跡	奈良・平安時代
	鉄鏃	鉄	三春町光谷遺跡	奈良・平安時代
	鉄鏃	鉄	いわき市大久保F遺跡	奈良・平安時代
	鉄鏃	鉄	東村谷地前C遺跡	奈良・平安時代
	復元品	仕様概要		
	直刀刀装	笹内古墳群例の刀装を研究復元で製作。		
	刀身	笹内古墳群例を伝統的な技法で製作。		
	矢	笹内古墳群例を研究復元で製作。		

8 さまざまな鉄の道具	展示品	素材	出土遺跡	時代
	鋤先または鍬先	鉄	小野町本飯豊遺跡	古墳時代
	鋤先または鍬先	鉄	泉崎村滝山前原C遺跡	古墳時代
	鉄斧	鉄	小野町本飯豊遺跡	奈良・平安時代
	鉄斧	鉄	石川町大内B遺跡	奈良・平安時代
	鉄斧	鉄	原町市鳥打沢A遺跡	奈良・平安時代
	鎌	鉄	三春町越田和遺跡	奈良・平安時代
	手鎌	鉄	須賀川市沼平東遺跡	奈良・平安時代
	火打ち金	鉄	猪苗代町登戸遺跡	奈良・平安時代
	鋸	鉄	猪苗代町登戸遺跡	奈良・平安時代
	鉋	鉄	矢吹町小又遺跡	奈良・平安時代
	刀子	鉄	三春町越田和遺跡	奈良・平安時代
	紡錘車	鉄	猪苗代町登戸遺跡	奈良・平安時代

「暮らしをささえた道具たち」展示品一覧(4)

8 さまざまな鉄の道具	復元品	仕 様 概 要
	鋤	本飯豊遺跡例の復元品を鋤として装着。柄は宮城県中在家南遺跡例を参考に製作。
	鋤	矢吹町上宮崎A遺跡例刃先・大森A遺跡例鋤身を復元し、宮城県中在家南遺跡例を参考にした柄に装着。
	鍬	上宮崎A遺跡例刃先を復元し、長野県本誓寺遺跡出土柄復元品に装着。
	手斧	本飯豊遺跡例鉄斧復元品に大猿田遺跡出土膝柄復元品を装着。
	鎌	大猿田遺跡復元例に矢吹町上宮崎遺跡出土鉄製鎌先を復元装着。
	手鎌	沼平東遺跡例復元品に木柄を装着。
	火打ち金	登戸遺跡例復元品に木柄を装着。
	鋸	登戸遺跡例復元品に木柄を装着。
	鉋	小又遺跡例復元品に木柄を装着。
	刀子	笹内古墳群例復元品に、正倉院蔵品を参考にした装具を付ける。
	紡錘車	越田和遺跡例を復元し、麻紐を巻きつける。

9 鉄を作る	展 示 品	素材	出 土 遺 跡	時 代
	獣脚鋳型	土	新地町向田A遺跡	奈良・平安時代
	獣脚鋳型	土	相馬市山田A遺跡	奈良・平安時代
	不明鋳型	土	相馬市山田A遺跡	奈良・平安時代
	龍頭鋳型	土	新地町向田A遺跡	奈良・平安時代
	ふいご羽口	土	原町市長瀬遺跡	奈良・平安時代
	土師器杯	土	鹿島町大迫遺跡	平安時代
	手捏土器	土	原町市大船迫A遺跡	奈良・平安時代
	土鈴	土	原町市大船迫A遺跡	奈良・平安時代
	鏡形土製品	土	鹿島町大迫遺跡	奈良・平安時代
	臼形土製品	土	原町市大船迫A遺跡	奈良・平安時代
	梵鐘鋳型	土	新地町向田A遺跡	奈良・平安時代
	ふいご羽口	土	原町市大船迫A遺跡	奈良・平安時代
	ふいご羽口	土	鹿島町大迫遺跡	奈良・平安時代
	通風管	土	原町市長瀬遺跡	奈良・平安時代
	流出滓	鉄	原町市長瀬遺跡	奈良・平安時代



「暮らしをささえた道具たち」のようす

1 常設展示



〈道具の作り方〉解説システムの映像

4号鍛冶炉を含む22号住居跡、木炭窯は大船迫A遺跡12号木炭窯と21号木炭窯をモデルとしてこれらを組み合わせてひとつの模型とした。当時の全国随一と考えられる製鉄基地の一端を紹介している。相馬、原町地域は白河から遠いこともあり、また県教育委員会の発掘調査における最大の成果の一つであることから特に重点的に扱った。

調査成果の一つとして、木炭窯内に残された木炭樹種の変遷を根拠に、当時の遺跡周辺の樹木は9世紀代にほぼ切り尽くされたと考えられる所見が出されている。ここでは、古代における特定工業団地の造成、開発により周囲の自然が壊滅的打撃を被ったこと、同じ場所に現代の工業団地が造成されるという歴



製鉄遺跡操業時復元模型

史が繰り返される面白さなども学習のねらいとして企図した。

サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉

「暮らしをささえた道具たち」の最後に設置したビデオコーナーである。当初、「遺跡を掘る」コーナーの冒頭に設置を予定し、これまで調査した遺跡の調査方法・経緯を紹介しようと考えたものだが、発掘調査を記録した素材が少なく、一方で野外展示の復元過程や古墳時代の金属製品復元に当たって映像記録を残したこともあり、この双方を紹介する内容に変更したことから設置場所も移動した。結果、両コーナーのつなぎという意味付けになった。

番組数は7件で、各番組の放映時間は3分

まほろんビデオBOXの番組

1	足元の遺跡 (3'44")	白河館敷地内、造成工事に伴って発見された一里段A遺跡の発掘調査過程を紹介する
2	縄文の縄の復元 (3'41")	縄文時代から縄の素材に用いられていたアサの栽培過程と縄の作り方を紹介する
3	竪穴住居跡を掘る (3'43")	天栄村山崎遺跡で見つかった7世紀の竪穴住居跡の発掘調査過程を検出から完掘まで紹介する
4	古墳時代の金属加工技術 (6'09")	東村策内横穴墓群から出土した馬具の復元製作過程と耳環の金メッキ技術を紹介する
5	古墳時代の鏡は語る (2'54")	同祀鏡である会津若松市会津大塚山古墳と岡山県総社市鶴山丸山古墳の三角縁神獣鏡の相互関係を探る
6	横穴墓に眠る副葬品 (3'31")	矢吹町弘法山横穴墓群から出土した鉄刀やガラス玉など数々の副葬品を紹介する
7	奈良時代の家の復元 (3'46")	野外展示で復元した奈良時代の竪穴住居のモデルにした遺構と建築経過を紹介する



まほろんビデオBOX

から6分程度、LDプレイヤーによる選択方式である。

d 「遺跡を掘る」

当館に収蔵する出土品がどのように遺跡からもたらされるのか。とくに発掘調査がどのように展開されるのかを模型で紹介するコーナーである。

当初は、長さ480cm、幅133cmの展示台に、縮尺1/30で、①表面調査②試掘調査③発掘調査④整理作業⑤開発工事⑥遺跡公園の6場面を構成する計画であった。打合せの過程で、場面数が多い上に、縮尺（縮小率）が大きいため、表現される遺構が密接し、人物も大きく多数で、全体が混雑したものになる恐れがあるという意見があり、実施設計に変更を加えた。

縮尺をまず実際の1/50とし、人数は変更しないことにした。この結果、発掘調査の細かな工程も、それぞれのまとまりが、把握しやすい配置になった。また、模型にリアリ

ティーを出すため、高規格道路を建設するための事前の発掘調査が必要となり、発掘調査の結果、開発計画を変更し、遺跡の一部が公園として整備されるというストーリーを設定した。発掘調査には法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町：磐越道建設のために調査）を選んだ。

①表面調査はパネルで紹介することにし、

②試掘調査を最初に持つてくることにした。季節は春先とし、路線決定した場所を試掘している様子とした。

③発掘調査は真夏の季節とし、路線外の畑では、これまでどおり茄子やトウモロコシが育ち、無機的に区画された調査区内で発掘調査が行われている様子を再現した。

調査は遺構確認・住居跡の発掘（畦を残した掘り込み・土層の記録・掘り上り・平面図の作成・写真撮影）・土坑の各調査・杭打ち・旧石器時代の調査・遺跡を訪れた小学生への説明を盛り込んだ。

法正尻遺跡は縄文時代中期の大規模集落



〈遺跡を掘る〉模型の一場面

1 常設展示

で、多数の複式炉を持つ住居跡やフラスコ状土坑が複雑に重複している。このまま模型で再現するには数が多いため、数を間引くことにしたが、地形や遺構の位置関係は変更していない。また採用した遺構全てを「発掘」状態にするのではなく、なるべく検出のままとし、煩雑にならないように留意した。なお、発掘調査を再現するに当たって、法正尻遺跡と近い内容の檜葉町馬場前遺跡の発掘調査現地を訪問し、資料収集を行った。

④整理作業は、当財団遺跡調査課遠瀬戸調査室を参考とした。

⑤開発工事は高架橋脚、重機・クレーン車などの工事車両を配置し、工事現場の雰囲気を出す予定であったが、立体的で、全体の中で目立ち、来館者の目を他から奪う恐れがあり、次の⑥遺跡公園を優先させるべきと考え、パネルで扱うことにした。

⑥遺跡公園は秋空の下、訪問者が思い思いに、それぞれ自分の時間を過ごす一つの理想の形として再現した。復元された竪穴住居跡はまほろんの野外展示を参考としたものである。

サブコーナー〈話題の遺跡〉

県、市町村を問わず、話題になった遺跡資料を速報的に展示するコーナーである。よって頻繁に展示替えを行うことを前提にローケース、ハイケース、壁面システムパネルを設置して可塑性を高める設計としたが、予備のケースを用意する余裕がなかったため、将来的に対応に苦慮する可能性がある。



サブコーナー〈話題の遺跡〉

開館当初には、平成10年に宮城県築館町伊治城跡で出土した「弩」の「機」部分の複製品を製作して復元品とともに展示することとした。古代において「弩」が県内の軍団とも大に関わる資料である点を考慮したためである。

他に平成12年に調査された矢吹町弘法山古墳群の出土資料、平成11年に飯野町和台遺跡で出土した縄文時代中期の人体文付深鉢、狩猟文土器を予定した。

e 「みんなの研究ひろば」

「歴史」は全ての人の研究対象であり、「文化財」もまたその歴史を研究するひとつの材料である。難しい議論をして専門家のみが研究する領域では決してない。一般県民や小中学生、高校生、大学生などそれぞれが歴史や考古学に興味を持ち、研究をしている人がたくさんいることも事実である。あるいはレーダー探査やX線の応用など文化財や発掘調査に関わる先端技術の開発を手掛けたり、年代決定などの研究に関わる企業もある。専門家か否かに関わらずたくさんの人達の研究を紹介するのがこのコーナーである。

ただし、このコーナーで展示するか否かの判断は、主体的研究を行っているかどうかを基準とすることとした。つまり、遺跡で表面採集した資料を収集しているだけでは展示の対象とはせず、その資料をどのように解釈したかという「研究」面が盛り込まれている場合は展示の対象とするという基準である。



「みんなの研究ひろば」

開館当初の展示資料としては、今井恭平君（会津若松市立第二中学校二年生）と宮田龍一君（福島大学教育学部附属小学校四年生）の縄文時代研究成果、菊地鐵夫氏（福島市在住）の二本松市塩沢上原遺跡採集石器とその研究成果、渡部久子氏（会津若松市在住）の土偶から類推した縄文人の髪形復元の4つの研究紹介を予定した。

このコーナーも頻繁に展示替えを行うため可塑性を高くすることに努め、展示什器は、演示台、ローケース、ハイケース、壁面システムパネルで構成した。

f 「クイズふくしま歴史発見」

基本設計段階からパソコンを用いたゲーム感覚の学習コーナーを想定していたが、内容は最終段階まで決まらず大いに悩んだ部分である。要因は担当学芸員がパソコンに関する十分な知識と経験を持ち合わせていなかった点にある。展示等検討委員会委員に会津大学コンピュータハードウェア学科の齋藤梅朗先生に加わっていただき、貴重なご意見をいただいたにも関わらず、ソフトの選択において展示業者との意見の違いを調整できず活かしきれなかったのは事務局の不徳のいたす所である。

パソコン上で土器の破片を組み上げる案やロールプレイングで発掘調査を行っていく案、来館者の日記や感想を記録するパソコンノートと記念写真を組み合わせる案などを検討したが、予算と時間に迫られ、最終案では



「クイズふくしま歴史発見」モニター

展示で学習した事柄をクイズに答えながら復習するという、比較的単純な内容に落ち着くこととなった。

クイズは日本史上における4人の偉人（卑弥呼、源頼朝、西郷隆盛、野口英世）が解答者を味方につけるため、その能力を試すという設定で進む。日本史上に画期をもたらした人物を取り上げることで中央と福島の影響を印象づけることをねらいに前3者を選んだ。野口英世は福島が生んだ世界的偉人という理由である。それぞれが出題する内容はその人物が生きた時代以前の歴史事象に関するものとなっている。

出題数は5問であるが、各々10問が準備されておりシャッフルされて出題されるため、連続して行った場合でも全問が同じ内容にはならないようにしてある。

5問全問正解の場合、名前を入力の上小型カメラで写真を撮影すると各偉人からの写真入り任命書・知行状等（ポストカードに印刷）を貰うことができるという流れである。

小さな子供が乗って操作できるようにスツールを用意した。

g 「のぞいてみよう福島の遺産」

館の延床面積の56%を占める収蔵庫に対して常設展示室は9%に過ぎない。来館者に当施設の第一の機能を理解してもらうため、収蔵施設の一部でも覗くことができるように展示室から収蔵庫への通路を設けてガラス張りの向こうに収蔵庫が見えるようにした。観覧



全問正解でもらえる知行状



「しらかわ歴史名場面」

者がガラス手前のスイッチを押すと収蔵庫内を照射する照明が3灯点くようにした。覗き場所から収蔵庫奥までは約80mあるが、この奥行きまでを体感できるものではない。

h 「しらかわ歴史名場面」

地元白河地域に配慮した白河地域に関わる資料を紹介するコーナーである。現在の行政単位である白河市に限らず、古代白河郡（現在の県南地域）を対象にしている。考古資料に限らず様々な歴史場面を象徴する資料を展示紹介することを前提としているが、什器を余分には準備できなかったため、ローケース2台と壁面システムパネルのみであり、「みんなの研究ひろば」や「話題の遺跡」の什器類と融通しながら展示替えを行っていかざるを得ない。

開館当初の展示は、古代白河郡衙と白河軍団に焦点を当てることとし、特に実体が全く不明な白河軍団についてビジュアルに展示構成することを目標に、軍団兵士を復元製作することをこのコーナーの目玉に位置付けた。製作経緯については別記詳述する。

i 映像展示「ふくしまの文化財ーいのちのかたち」

常設展示室の最後のコーナーで、福島県内の文化財を映像で紹介するものである。国及び県指定資料を中心に構成してある。

41インチ×4面のマルチビジョンのモニターを設置し、腰掛けて鑑賞できるように椅子を10脚配置した。モニターの前にボタンス



4面マルチビジョン「ふくしまの文化財」

スイッチを取り付け、見たい人がスイッチを押せば放映されるようになっている。長時間放映がなされないと主電源がOFFになり節電ができるように配慮した。再起動の場合は20秒ほどかかるがこの間は音楽が流れるようにした。

ソフトの内容については、展示全体が「わかりやすく」というコンセプトであることから、最後のコーナーということもあり逆にわかりにくい内容にすることを意識した。文化財とはこんなものか、というままで終わらせず、文化財は何やら奥深いものらしい、という印象で展示室を出ることにより更なる探求心を刺激するねらいである。

「いのちのかたち」というタイトルは、文化財を産み出してきた過去の人達が、それぞれの生きた時代において祖先や子孫の「いのち」、またその時代に生きている人々、あるいは自らの「いのち」そのものを「かたち」にしてきたという考えを基にしている。ストーリーは「いのちの再生」を柱としてキーワードに「木」「火」「土」「金」「水」の五行を挙げ、相剋・相生の中で文化財が形作られてきたという流れで進む。また、時として人は戦争という過ちを犯し、いのちやかたちを破壊するという愚行も繰り返してきた。このような記憶を留めた文化財を改めて見直してもらいたいというものである。ソフト製作は㈱TUFプランニングに委託した。取り扱った素材は次ページ表の通りである。

「ふくしまの文化財ーいのちのかたち」映像素材一覧

蜂の子窯 長沼町	伊藤文夫さんが勢至堂の集落で開いている陶器を焼く窯。半地下式のあな窯。
二彩浄瓶 郡山市	七ツ池出土（個人蔵）国指定重要文化財 奈良時代
刀鍛冶 福島市	立子山在住の藤安将平さん。県内でただひとりの專業刀鍛冶。
紙すき 安達町	上川崎の集落で昭和の半ばまで盛んに行われていた。安斎保彦さんが今も伝統の技を受け継いでいる。
絹本著色両界曼荼羅 会津高田町	県指定重要文化財（龍興寺蔵）室町時代1503年に地元で描かれたもの。
清戸迫横穴壁画 双葉町	国指定史跡 古墳時代 昭和42年、小学校の敷地造成時に76号横穴から発見された。
旧正宗寺三匠堂 （さざえ堂） 会津若松市	国指定重要文化財（個人蔵）江戸時代 庶民のための身近な巡礼の建物。
木造薬師如来坐像 湯川村	国宝（勝常寺蔵） 平安時代 樺の木造。地方仏の代表作。
埴輪男子胡坐像 いわき市	神谷作101号埴輪国指定重要文化財（福島県教育委員会蔵） 古墳時代
縄文土器 西会津町	小屋田遺跡（西会津町教育委員会蔵）縄文時代中期
薬師堂石仏 小高町	国指定重要文化財 平安時代 岩窟に半肉彫された仏像。傷みが激しく、現在保存方法を検討中。
蹲踞する土偶 福島市	上岡遺跡 県指定重要文化財（福島市教育委員会蔵） 縄文時代後期
白水阿弥陀堂 いわき市	国宝 願成寺 平安時代（伝1160年建立）
一字蓮台法華經 会津高田町	国宝 龍興寺 平安後期
杉浦康平氏 東京都在住	神戸芸術工科大学教授ブックデザイナー。主著：『日本のかたち・アジアのかたち』（三省堂）
長覆輪太刀 棚倉町	国指定重要文化財（馬場都々古別神社蔵） 鎌倉時代
三角縁神獸鏡 会津若松市	会津大塚山古墳 国指定重要文化財（会津若松市蔵） 古墳時代

南柚木太神楽 鹿島町	伊勢大御神 南柚木神楽保存会 江戸時代から七太夫家（7軒の楽人の家）によって舞われていたと記録されている。
松明あかし 須賀川市	二階堂神社 祭礼：11月10日 天正17（1589）年、須賀川城落城の際の戦死者を供養したのが起源。
檜枝岐歌舞伎 檜枝岐村	「舞台」は県指定重要有形民俗文化財。地元の花駒座によって演じられる県内に残る唯一の歌舞伎。
つつこ引き 保原町	巖島神社 祭礼：旧正月25日 農作物の豊凶を占う「作占」。大つつこを裸の若者が奪い合う。
からむし織り 昭和村	県指定重要有形民俗文化財（からむし生産用具とその製品）本州唯一の生産地。越後上布などの原料。
銅鐘 白河市	国認定重要美術品 龍蔵寺蔵 江戸時代元禄4（1691）年白河藩主松平（奥平）忠弘が寄進。
東京大空襲	1945年3月10日 アメリカのB29型重爆撃機279機が東京を襲い、死者8万人、罹災者は100万人に上った。
高木遺跡の発掘調査 本宮町	縄文時代～平安時代 阿武隈川沿いに営まれた縄文時代と古墳時代の大規模集落跡。
現代人女性	呼倫（モデル）
取材協力：赤土隆行 荒幸弘 安斎保彦 飯盛正日 伊藤文夫 茨木龍信 宇佐美紘一 笥 光海 杉浦康平 鈴木幸並 角田和弘 藤安将平 柳田 薫 アニメーションフィルム 会津高田町教育委員会 会津若松市 小高町教育委員会 福島市教育委員会 双葉町教育委員会 西会津町教育委員会 県立医科大学 県立博物館 (敬称略)	